

1-P-014

# 看護必要度のベンチマークを 活用したパス分析

中谷 潤(なかたに じゅん)<sup>1</sup>、戸崎 真理<sup>1</sup>、石川 歩<sup>1</sup>、正親 真美<sup>1</sup>、  
池田 淳子<sup>1</sup>、井上 美鈴<sup>1</sup>、須藤 真由美<sup>1</sup>、藤森 大志<sup>2</sup>、福田 護<sup>2</sup>、佐藤 聡<sup>2</sup>

---

<sup>1</sup>上尾中央総合病院 医療情報管理課    <sup>2</sup>上尾中央総合病院 泌尿器科

## 本研究の経緯

【前回報告】(第 19 回 日本クリニカルパス学会 2018.10.12)

- \* 看護必要度(Hファイル)を用いたパス分析を提案
- ▶ 患者状態が見える化され、パス日数の目安を算出することが可能

看護必要度のベンチマーク(BM)でさらなるパス分析が期待できそう

前回の結論に応じて!!

## 本研究の目的

- \* DPC データによるパス分析にイノベーションが起こせないだろうか？
  - ▶ 看護必要度の BM を活用したパス分析を提案
    - ◆ 自院と他院と比較することで、強み・弱みを明らかにする
- そして、強みを活かし、弱みの改善を目指す

# 上尾中央総合病院の概要

2019.04 現在

- \* 埼玉県県央地域の急性期病院として、地域住民に質の高い医療を提供する
- \* 指定等 急性期一般入院料 1、地域医療支援病院、二次救急医療機関  
DPC 対象病院[DPC 標準病院(Ⅲ)群] (2006 年度) 等
- \* 病床数 一般 733 床(うち回復期リハ病棟 53 床、緩和ケア病棟 21 床、感染症病床 9 床)
- \* 外来患者 35,584 延人/月
- \* 入院患者 20,725 延人/月
- \* 救急患者 1,745 延人/月

※患者数は、2018 年度の平均値



当院は埼玉県中央に位置する

# 当院のクリニカルパス整備状況

- \* 電子カルテシステム      MegaOakHR (NEC)      2011.07 より運用
- \* 運用パス . . . . .      156 種類 (すべて電子パス)      2019.11 現在
- \* BOM 対応状況 . . .      未導入 (導入を検討中)
- \* パス適用割合 . . . .      40.7%      2019.11 現在



## ◆ 2018 年度 診療科別パスの適用割合 (割合 = パス件数 / 退院件数)

	割合	退院 件数	パス 件数
<b>総 計</b>	<b>42.1%</b>	<b>18,562</b>	<b>7,820</b>
産婦人科	91.2%	1,650	1,505
消化器内	40.0%	2,867	1,146
泌尿器科	58.7%	1,555	913
外 科	58.6%	1,555	911
循環器内	41.3%	1,944	802
整形外科	50.0%	1,286	643
耳鼻科	44.3%	917	406
腎臓内科	51.4%	728	374

	割合	退院 件数	パス 件数
小 児 科	30.9%	940	290
皮 膚 科	72.2%	180	130
脳 外 科	12.3%	974	120
美容外科	93.5%	123	115
歯 科	59.6%	178	106
乳腺外科	50.7%	205	104
心臓外科	27.0%	370	100
眼 科	97.6%	83	81
小児外科	94.8%	58	55

	割合	退院 件数	パス 件数
腫瘍内科	3.0%	461	14
血液内科	0.7%	295	2
糖尿病内	0.4%	230	1
脳 内 科	0.5%	219	1
リハ科	0.5%	186	1
総合診科	0.0%	1,158	0
形成外科	0.0%	201	0
呼吸器内	0.0%	199	0

# パスの分析方法

- \* DPC分析ソフト『girasol』を用いて、看護必要度を BM 分析
  - ◆ 看護必要度の分析には、DPCデータであるHファイルを使用
  - ▶ **他院と差がある**看護必要度の項目を見える化

## 今回分析対象となるパスの選定

- \* 対象は、年間適用件数が多い「泌尿器科」

■泌尿器科パスTOP 5 (2019. 04-10)

1	前立腺生検	3日間	115件
2	経尿道的結石破碎術	6日間	115件
3	ロボット支援下腹腔鏡下前立腺全摘除術	10日間	87件
4	経尿道的膀胱腫瘍切除術	7日間	52件
5	経尿道的レーザー前立腺切除術	8日間	48件

今回の対象はこちら!!

【選定条件】

- ・看護必要度の対象
- ・件数が多い
- ・適用日数が長め

# ロボット支援下腹腔鏡下前立腺全摘除術パス

## ■適用日数等

適用日数	10日
術前日数	1日
術後日数	8日

## ■件数推移(月平均)

2016.04-03	12件
2017.04-03	13件
2018.04-03	15件
2019.04-10	12件

看護必要度 当院 37.5%  
(パス期間) B M 47.8%

なんと **10** ポイントも低い!!  
項目別に分析し原因を探る

※手術支援ロボットを 2013 年度より導入

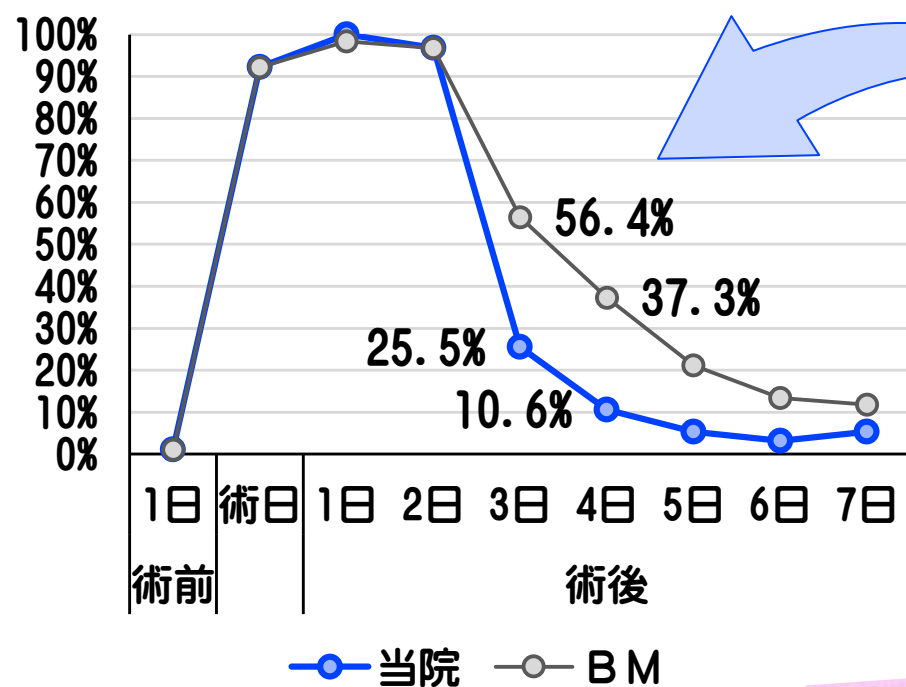
## ◆看護必要度の基準超割合(BM 分析)

		累積	術前		術後						
			1日	術日	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日
基準超割合	当院	37.5%	1.1%	92.2%	100.0%	96.8%	25.5%	10.6%	5.3%	3.2%	5.3%
	B M	47.8%	1.1%	92.2%	98.4%	96.8%	56.4%	37.3%	21.1%	13.4%	11.8%
A3点超割合	当院	32.2%	1.1%	87.2%	96.8%	59.6%	24.5%	8.5%	4.3%	2.1%	4.3%
	B M	-	0.9%	84.4%	83.0%	53.0%	38.1%	24.2%	15.8%	10.3%	10.1%
A2点B3点超割合	当院	23.6%	0.0%	88.3%	83.0%	28.7%	6.4%	2.1%	1.1%	1.1%	1.1%
	B M	-	0.2%	76.8%	76.0%	36.0%	15.0%	8.0%	4.5%	3.0%	2.0%

※K843-4 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる)を算定している症例

# パス期間中における看護必要度の推移

## ■基準超割合

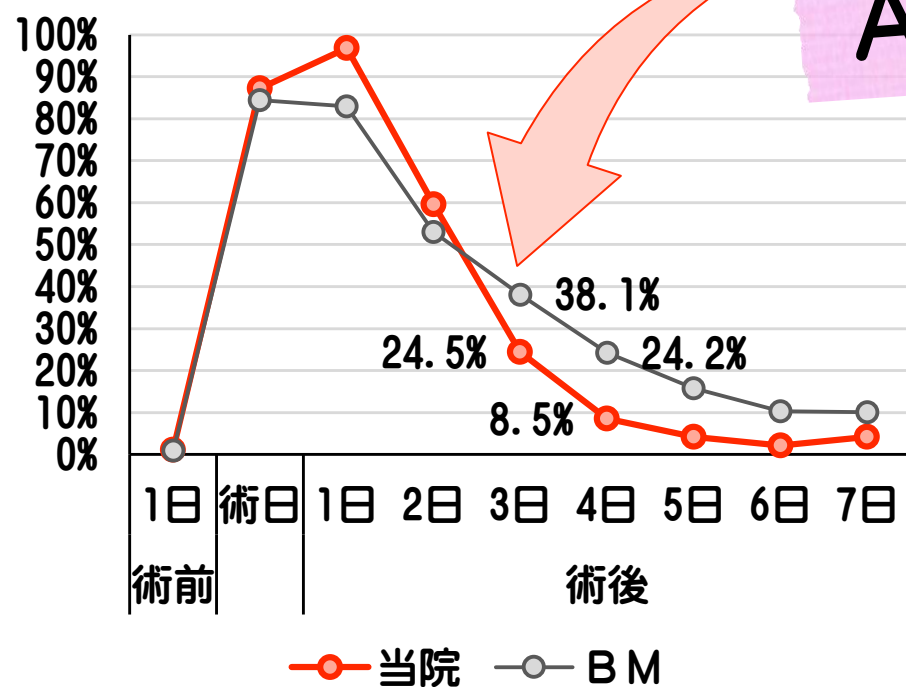


術後 3 日目から  
他院より低い!!



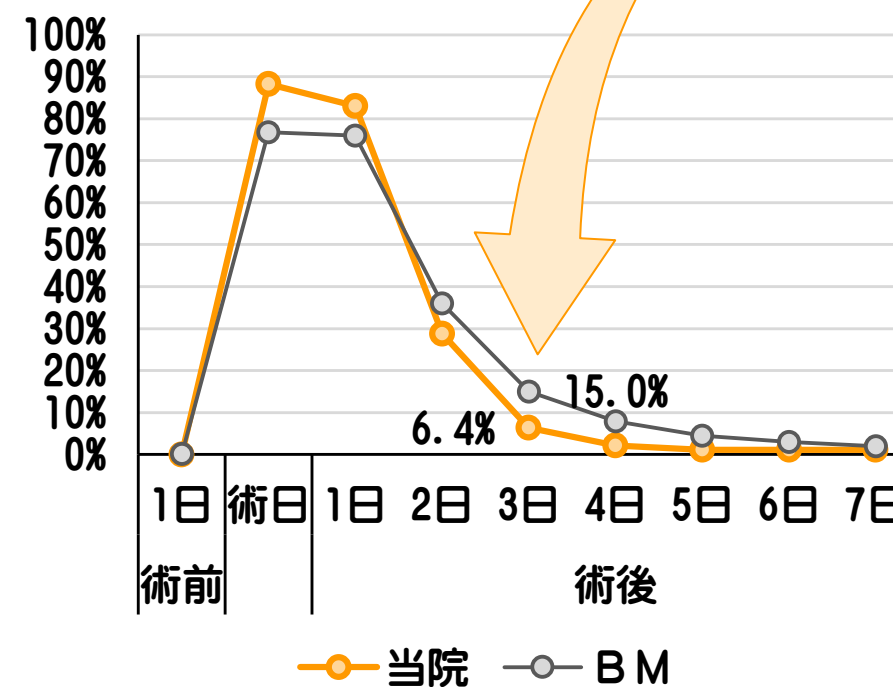
原因は  
A 点が少ないから?

## ■A3点超割合



B 点は影響小さいかも?

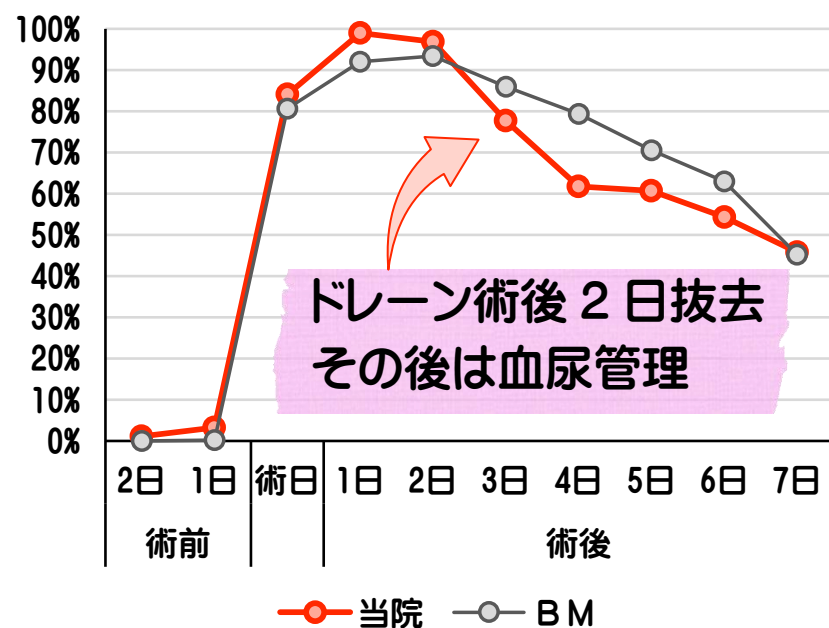
## ■A2点B3点超割合



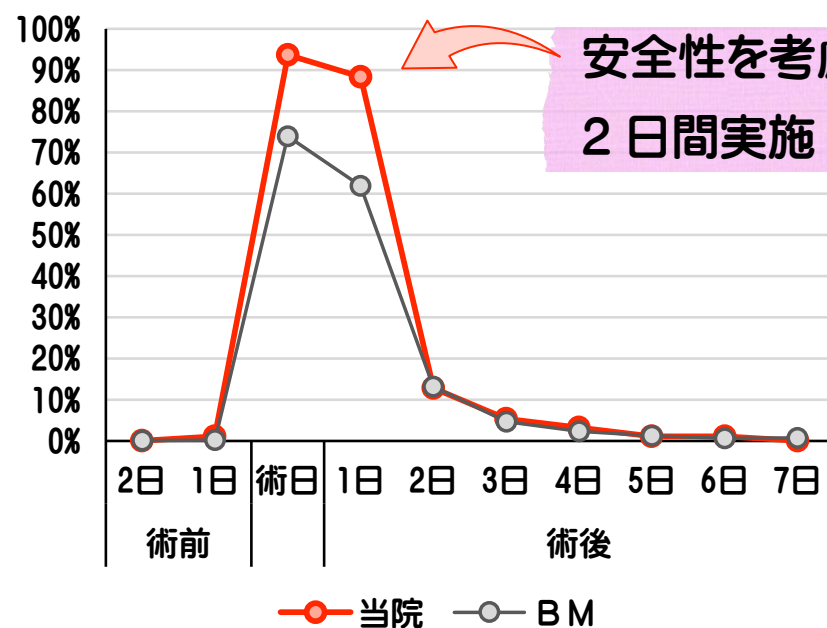
※C項目は、すべて「胸腔鏡・腹腔鏡の手術(3日間)」のため、C1 点は省略

# A 項目(モニタリングおよび処置等)

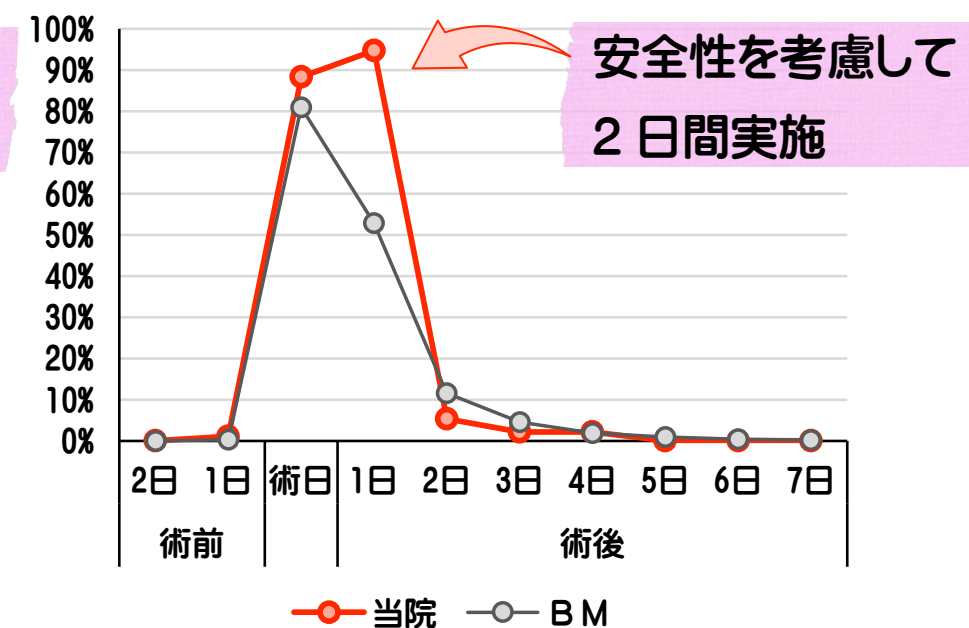
■A07専門的な治療・処置(ドレナージ)



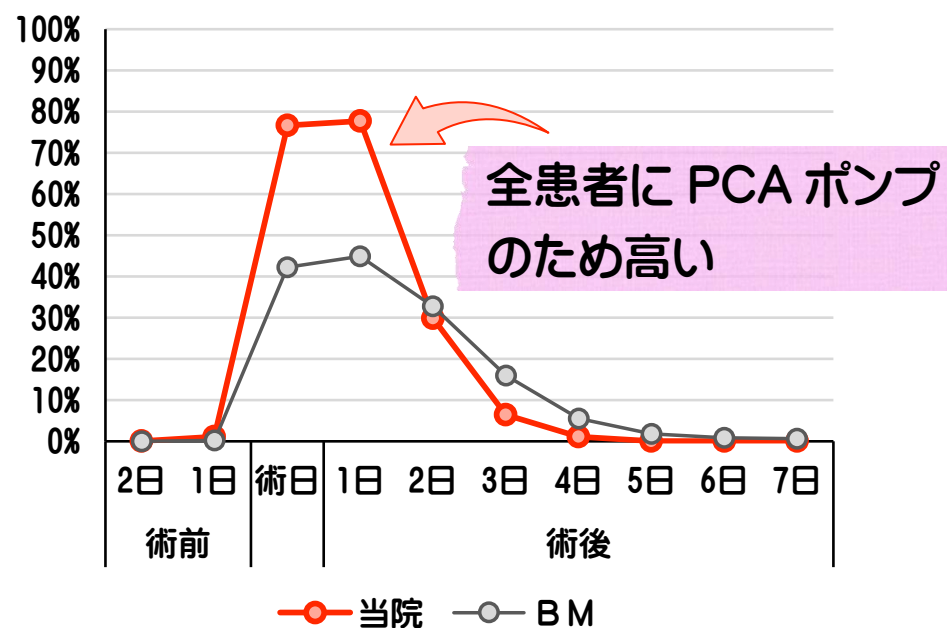
■A04心電図の管理



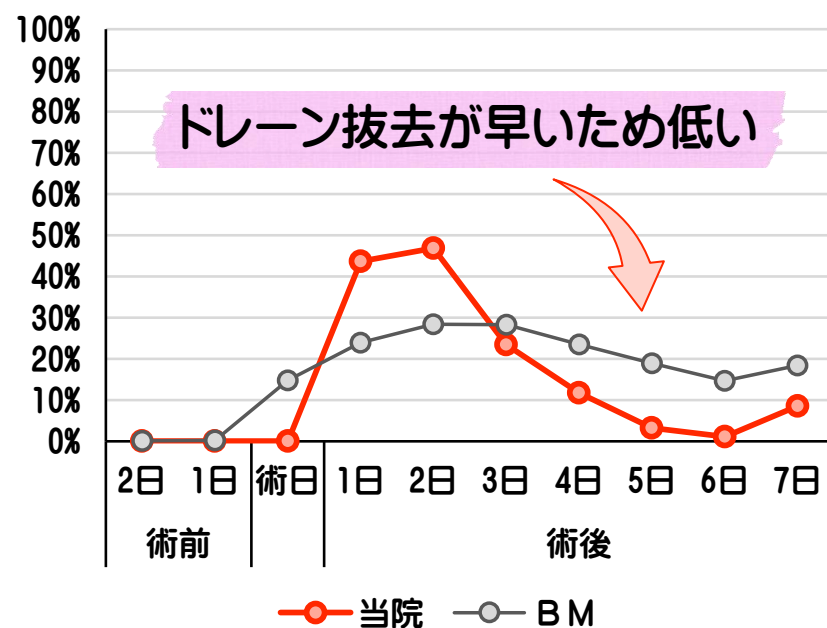
■A02呼吸ケア



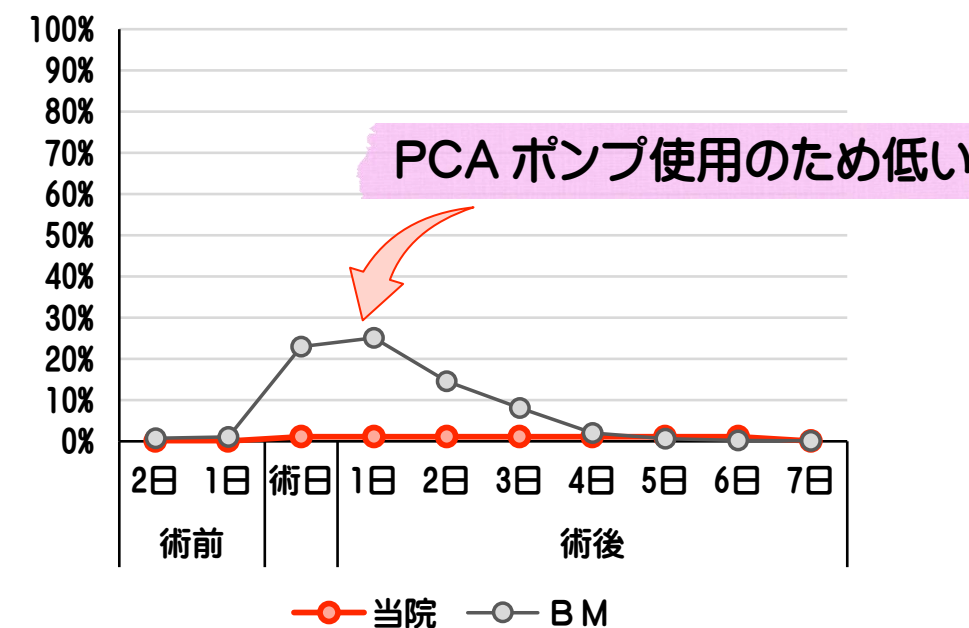
■A07専門的な治療・処置(麻薬の使用(注射))



■A01創傷処置(褥瘡以外)



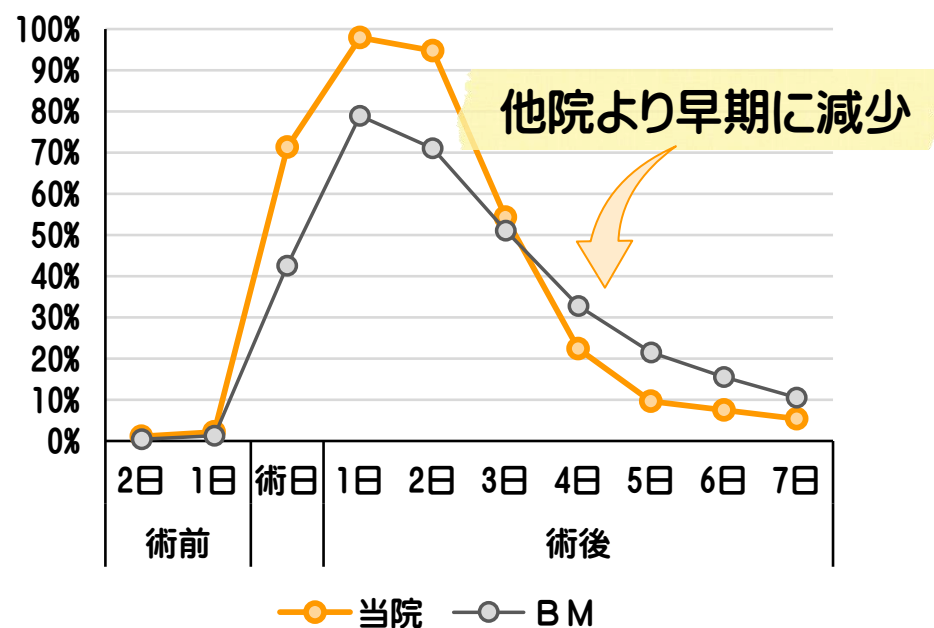
■A05シリンジポンプ



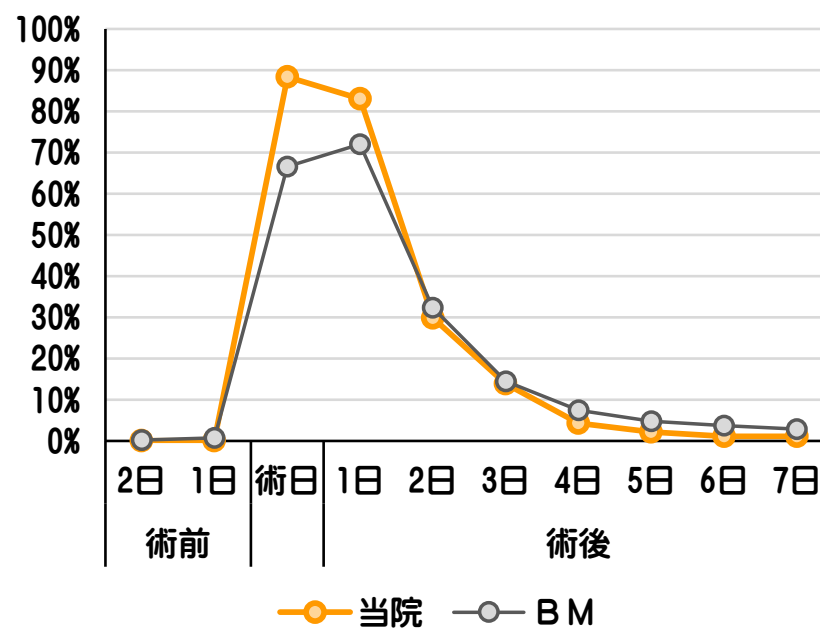


# B 項目(患者の状況等)

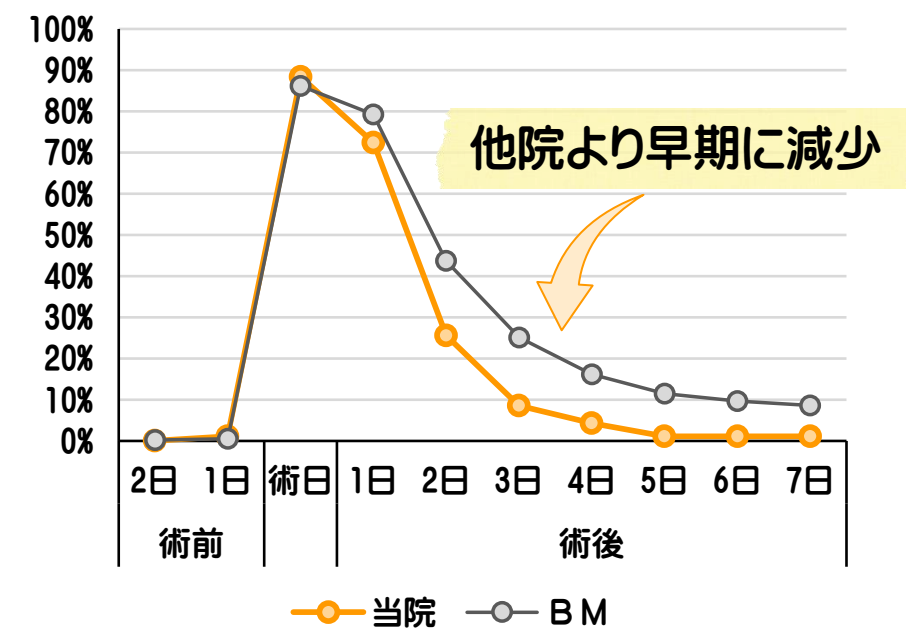
■B05衣服の着脱



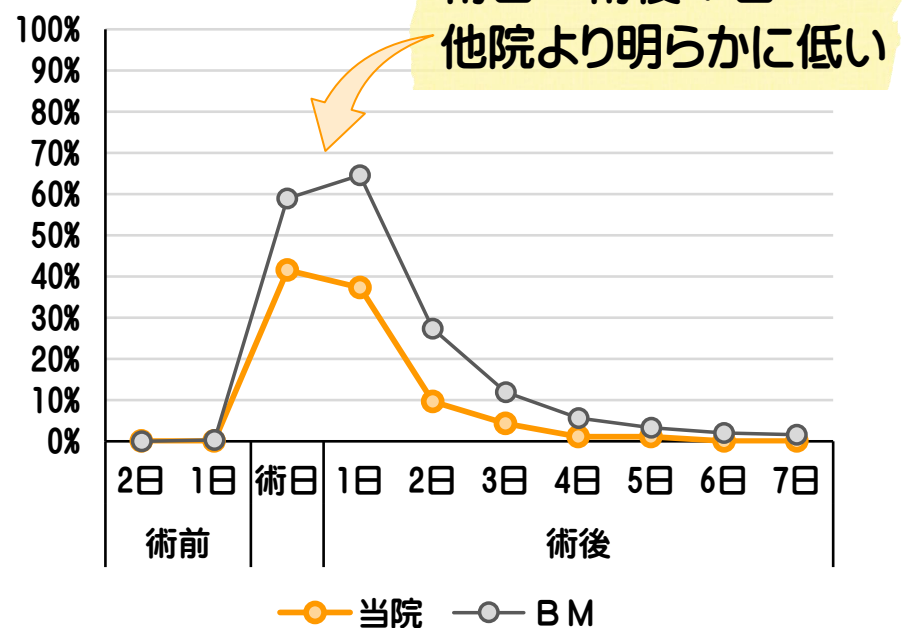
■B02移乗



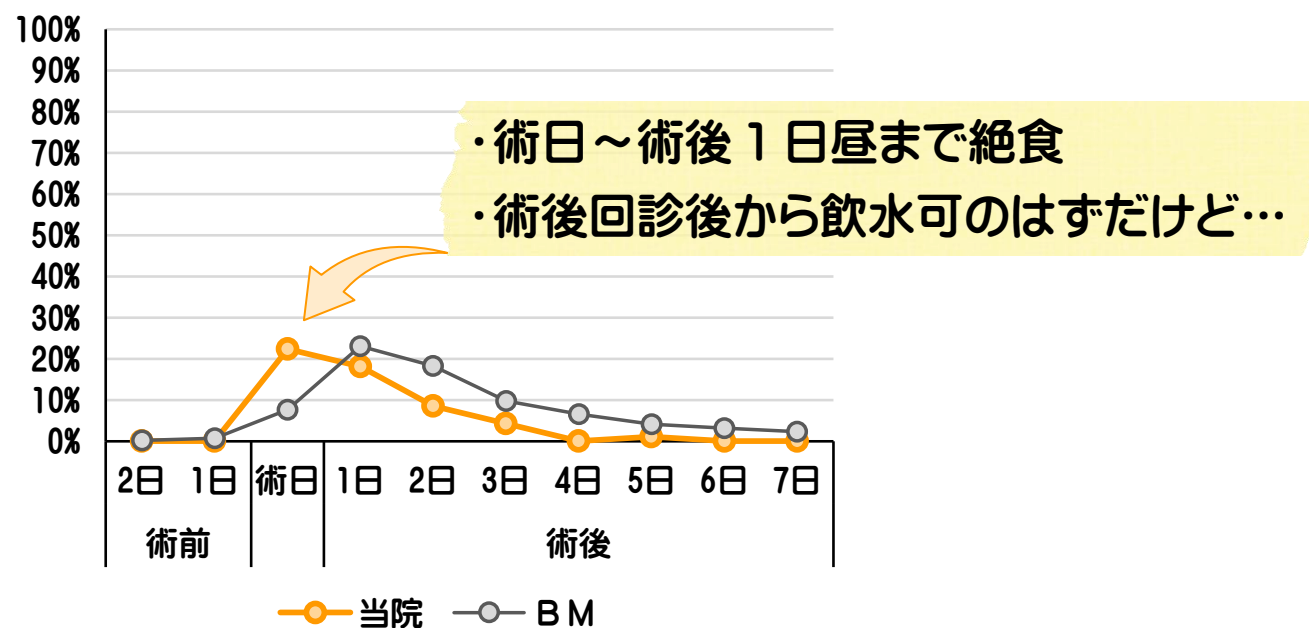
■B01寝返り



■B03口腔清潔



■B04食事摂取



## 看護必要度の BM による分析結果

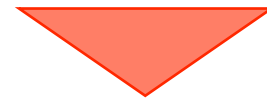
- \* 「**衣服の着脱**」や「**寝返り**」が他院より**早期**に評価割合が減少
- ▶ ADL 改善しており、パス日数の短縮も視野に見直しを検討
  - ◆ **パス日数を見直す**きっかけとなった
  
- \* **麻薬の使用**(注射薬)が他院より**高い**が評価割合 80%弱…
- ▶ 全患者に実施しているはずだが…、評価もれ？
  - ◆ 看護必要度の**評価の不備**に気がつくことができた
  
- \* **口腔清潔**が全体的に他院より**低い**
- ▶ 看護部へ結果をフィードバックし、ケア内容見直しを検討
  - ◆ **看護ケア内容を見直す**きっかけとなった



## まとめ

イノベーション成功!?

\* 今回、看護必要度を用いて BM 分析する方法を提案



\* 従来は、診療行為のみの比較だったが、患者状態含めた比較が可能に

▶ とくに日別推移を他院と比較したことは、

- ◆ 自院の強み・弱みを把握し、パス見直しのきっかけに有用
- ◆ BM 分析が DPC データによるパス分析の可能性を拡大

## 課題

\* 看護必要度 (H ファイル) の精度が低いと分析の精度も下がる

- ◆ 今回の BM 分析で問題点を見つけ、精度改善へつなげられる

\* H ファイルに退院日の看護必要度はなく、BM 分析できない

- ◆ 評価は退院日まで行っており、院内データだけであれば分析可能